

地域の太陽 あおがきっ子

青垣小学校 校長だより 令和8年7月号 発行責任者 植木政行

『なりたい自分』の実現に向けて ～キャリア教育の推進～

学習指導要領にキャリア教育を明示

平成29年3月に改定された現行の小学校学習指導要領の総則に、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること。」が明示されました。



平成29年度：開校式

特別活動を要としたキャリア教育推進事業（平成30・31（令和元）年度）

青垣小学校は、兵庫県教育委員会より平成30・31（令和元）年度のキャリア教育推進事業研究推進校の指定を受けました。当時の青垣小学校には、次の状況がありました。

- 開校間もなく、新しい校風をつくろうとしている。
- 小中一貫教育校で、中学校とめざす児童生徒像を共有し、小中一貫したキャリア教育を目指している。
- コミュニティ・スクールの活動を通して、地域に根差した教育を推進し、子どもたちにたくましく生きる力を付けようとしている。



平成30年度：たてわり掃除

児童会行事『ドリームフェスティバル』の種目を決めよう

令和元年度の6年生は、特別活動で、「児童会行事『ドリームフェスティバル』の種目を決めよう」というテーマで話し合いを進めました。

バドミントンは班対抗で盛り上がるけれど、準備に時間がかかると思う。

大縄なら、班対抗で競い合って、仲良くなれるし、時間内に準備ができる。

他の人のアイデアだけに任せず、自分の意見もしっかり出したい。

しっぽ取りは、話しかけたり、しっぽを取ったりした時の喜びで仲良くなれる。

今回は、物を準備することだけでなく、細かい段取りや分かりやすい説明に目を向けてがんばりたい。

友だちとアドバイスを合せて全校生が楽しめるゲームを作りたい。

この活動を通して、子どもたちは、みんなでやり遂げたい意欲が高まり、友だちに対して粘り強く関わるようになりました。また、相手意識は、目的を共有して活動する中で強まりました。そして、全体の活動の中での自分の役割を意識できました。体験や交流から何を学んだのかを明らかにする振り返りが必要です。その学びを自身の課題解決に結びつけることでキャリアを形成できます。

一つ一つの活動をキャリア教育の視点で見直す

学校教育では、教科学習や特別活動をねらいを持って実践してきました。青垣小学校は、それらを「特別活動を要としたキャリア教育」という視点で整理することにより、子どもたちの学びと自己の将来が深くつながり、キャリア形成と自己実現に向かっていくように取り組んでいます。

小・中・高12年間を繋ぐキャリア教育 実践充実事業（令和7・8年度）

令和7・8年度は、兵庫県教育委員会より、青垣小学校・青垣中学校・氷上西高等学校が「小・中・高12年間を繋ぐキャリア教育実践充実事業」の研究推進校として指定受けました。

児童生徒一人一人が、生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送るための基盤となる力を身に付けるため、小・中・高等学校12年間の学びのつながりを大切にします。

活用するのは、兵庫版「キャリア・パスポート」です。子どもが、小学校から高等学校までの「キャリア教育」に関わる活動を記録し、自身の変容や成長をキャリアデザインにつなげていき、将来への明確な目標を立てるためのプロセスにします。

『なりたい自分』の達成度を、未来へつなぐ

青垣小・中・氷上西高では、『なりたい自分』を描き、節目でふりかえって達成度を評価し、その実現に向けて未来へつないでいます。青垣小学校では、「めあてカード」を活用しています。年度当初には、1年後の『なりたい自分』の姿を記します。例えば、3年生では、「1，2年生のやさしい手本になっている自分」という姿があります。その達成に向けて、毎月のめあてを設定します。

6年生では、『図書室大改造プロジェクト』のなかで、『なりたい自分』に向けてどんな力が伸びたか、友だちとの良さががんばりを見つけて交流しながら、自分のふりかえりをし、次のめあてを設定しました。

子どもたち一人一人が、「自分らしく、幸せに生きる力」をはぐくんでいきます。



令和8年度：図書室大改造プロジェクト



令和2年度：クラブ活動「和太鼓」



令和3年度：運動会「応援合戦」



令和4年度：6年生を送る会



令和5年度：自然学校「野外炊事」



令和6年度：オオムラサキ放蝶会



令和7年度：小中合同あいさつ運動